

日本女性会議 2016 秋田大会の視察報告について

- 1 視察日程 平成 28 年 10 月 27 日（木）～10 月 29 日（土）

- 2 視 察 先 秋田市（日本女性会議 2016 秋田大会）

- 3 参 加 者
 苫小牧市長
 高橋実行委員長
 星企画部会長
 大谷企画副部会長
 甲谷企画副部会長
 成田ウエルカム部会長
 佐藤ウエルカム副部会長
 山岸ウエルカム副部会長
 片原部長、宮嶋課長、林課長補佐、
 蔵重主査、武曾主事、萩原囑託事務員

4 内 容

<所 感>

本年 10 月 28 日（金）から 10 月 30 日（日）の日程で開催された「日本女性会議 2016 秋田大会」において、来年開催する「日本女性会議 2017 とまこまい大会」の PR 及び大会の様子を視察するため、10 月 27 日（木）から 10 月 29 日（土）の日程で、高橋実行委員長はじめ、実行委員ほか約 30 人での視察実施となった。

大会期間中は、交流会、閉会式における PR のほか、参加者にグッズを配布することにより、多くの方にとまこまい大会を PR することができたとともに、大会の様子を実際に目にすることにより、来年度の大会に必要となる多くの情報を得ることができ、実りのある視察となった。

<大会前日（10月27日（木））>

- 9：15 新千歳空港集合
- 10：30 新千歳空港発（JAL2821便）
- 11：25 秋田空港着→秋田市内へ
- 14：00 昼食後、メイン会場（秋田県民会館）へ
ブース設置、PRグッズ準備等

メイン会場では、秋田市実行委員会の皆さんが、翌日に控えた本大会に向けた準備を進めていた。苫小牧のブースは、会館正面入口を入ってすぐ脇にあり、こちらから発送したPRグッズ等が山積みになっていた。



会館到着後、翌日のPRグッズ配布場所の確認や、会場内の配置等を一通り確認した後、ブース設置とPRグッズの配布準備を行い、本日の作業を終了した。



<大会 1 日目 (10 月 28 日 (金)) >

- 9 : 00 秋田県民会館到着、PR 準備
- 12 : 00 開場 (PR グッズ配布)
- 13 : 30 開会アトラクション (竿燈演技)
- 13 : 45 開会式
- 14 : 10 基調報告
- 15 : 00 記念講演 (藤原美智子氏)
- 17 : 30 交流会 (秋田キャッスルホテル)



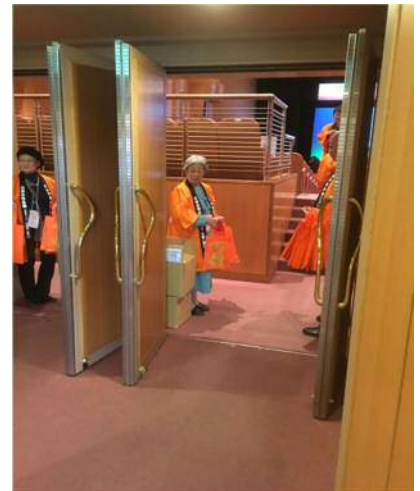
県民会館到着後、昨日準備した PR グッズを配布場所に配置するなど、開場に向けた準備を行った。開場後は、会場への各入口で参加者をお迎えし、PR グッズを配布しながら、来年度のとまこまい大会への呼びかけを行った。

配布したオレンジ色のバックが非常に目立ち、その後も秋田市内でオレンジ色のバックをもって、多くの人が歩いていたのが印象的だった。

昼食会場が別棟ということもあったのかもしれないが、開場後すぐに来場者が殺到するという状況はなく、徐々に集まってきた印象だったが、約 1,800 人が入る会場は、開会までに概ね満員となった。

小学生による竿燈演技から始まり、開会式、内閣府による基調報告と続き、最後は、ヘアメイクアップアーティストの藤原美智子氏の記念講演で 1 日目のプログラムは終了となった。

その後、場所を徒歩 5 分くらいの距離にある「秋田キャッスルホテル」に移し、17 時 30 分から交流会が行われた。交流会では、「なまはげ郷神楽」による和太鼓パフォーマンスから始まり、会場内には、地酒コーナー、稲庭うどんコーナー、きりたんぽコーナーがあり、多くの方が食されていた。



私どもは、18時45分から壇上でのPRタイムがあり、約30人がオレンジ色の
はっぴをまとい、のぼりや横断幕をもって登場、最後に壇上袖からとまチョコッ
プも登壇した後、大会長（岩倉市長）と高橋実行委員長から、来年のとまこま
い大会を多くの参加者に呼びかけたことにより、大盛況のPRタイムとなったと
思う。



なお、交流会終了後、会場を移し、苫小牧からの参加者のみで懇親会を行い、
PR 成果を共有するとともに、翌日に向けての決起集会としたところである。

<大会 2 日目 (10 月 29 日 (土)) >

- 9 : 00 各分科会会場へ
- 9 : 30 分科会
- 12 : 20 アトラクション
- 13 : 00 分科会報告
- 14 : 15 シンポジウム
- 16 : 00 閉会式
- 17 : 00 参加者見送り後、秋田駅へ
- 19 : 00 秋田空港へ出発
- 19 : 30 秋田空港着
- 20 : 35 秋田空港発 (JAL2828 便)
- 21 : 30 新千歳空港着、解散



午前中は、10 分科会が各会場で行われたので、それぞれが申込をした分科会に参加した。
なお、10 会場は、メイン会場から徒歩 5 分程度の近距離に集中していた。



分科会終了後、各指定会場で昼食をとり、メイン会場へ集まった。

メイン会場では、12時20分からアトラクションとして、「秋田民謡」が行われた。なお、昼食会場の情報が周知徹底されていなかったことから、県民会館で配布する弁当が不足する事態になったとのこと。1会場で全員が昼食をとることは難しいことから、分散する必要があるが、秋田大会では、10分科会を2分割し、2会場で昼食というパターンであった。できれば各分科会会場でそのまま昼食をとることができ、その情報をきっちり周知することができれば、こうした混乱は避けられるのではないか。

午後からは、メイン会場で分科会報告、シンポジウム、そして閉会式が行われ、すべてのプログラムを終了した。

分科会報告は、1時間で10分科会の報告をすることから、1分科会5分程度の持ち時間となり、報告できる内容は限られてしまう。とまこまい大会でも同様のスケジュールとなるが、5分で報告できる内容を今後検討する必要がある。

シンポジウムでは、秋田大会のメインテーマである多様性について発信する内容となったが、とまこまい大会では、男女平等参画について考えることをどのように発信するか、大会の総まとめとなることから、重要な場面となる。



閉会式では、最後の PR タイムとして、壇上でとまこまい大会を PR した。苦小牧、そしてとまこまい大会を発信する映像から始まり、公務で参加できなかった大会長（岩倉市長）のビデオメッセージ、高橋実行委員長挨拶という内容であった。閉会式前に帰った方も多かったが、PR 内容としては充実したものになったと思う。



閉会式後、会場外で参加者の見送りをを行ったが、多くの方に「来年苦小牧に行くよ！」という声かけをいただき、確かな手ごたえを感じることができた大会 PR となったと思う。

